

【プロジェクトの目的】

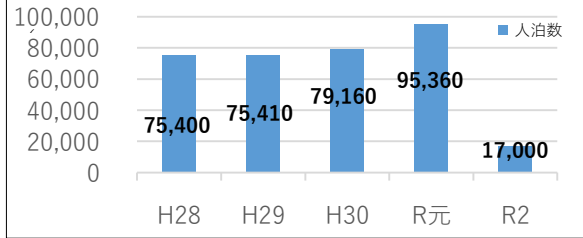
- ・国内人口が減少し、日本人をターゲットとした誘客には限界がある中、インバウンド対策のより一層の推進が必要
- ・関係者が連携して、課題（認知度向上・受入環境整備など）解決を図ることで、来高するインバウンドの増加に繋げる

〈産振計画目標〉

- ・外国人延べ宿泊者数8万人泊（R5）
- ・国際航空便：今後の整理事項とする（検討中）
- ・外国客船：調整中 ※「高知新港振興プラン」改訂にあわせて検討中

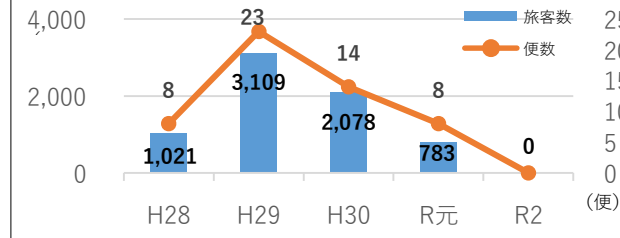
県内の現状

▶外国人延べ宿泊者数



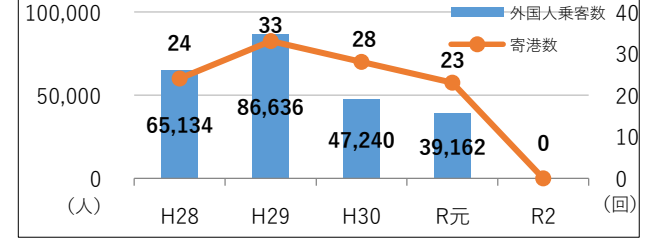
- ・H28～H30まで、3年連続で7万人泊台
- ・R元に95,360人泊で過去最高となったが、全国最下位
(出典：観光庁宿泊旅行統計調査（従業員数10人未満の施設を含む）)

▶国際航空便の就航状況



- ・H29年度は23便の運航があったが、国内線の増便により、駐機スポットの混雑、臨時的なCIQのスペース確保、ハンドリング体制の確保などが支障となり、便数が減少

▶外国客船の寄港状況



- ・H26に大型客船が着岸可能な岸壁が完成し、H29に過去最高の寄港数（邦船との合計数で全国16位）
- ・H30以降は中国発クルーズの減少に伴い、寄港数・乗客数ともに減少

課題

（1）観光地・高知の認知度向上や受入環境の整備が必要

- ①本県の魅力が重点市場等の方々に訴求しきれておらず、観光地としての認知度が低い
- ②インバウンド対応可能な事業者・施設の充実が必要
- ③現地旅行会社や航空会社に高知の魅力を継続的に伝えることが必要
- ④国籍、宗教、障害の有無等に関係なく、全ての旅行者に快適な観光を提供することが必要

（2）インバウンドの増加を図るために、外国客船の寄港増が必要

- ①新規に日本就航を予定している欧州・中国の船社等へ、高知の魅力をPRすることが必要
- ②客船の大型化に対応するため、高知市中心市街地における昼食場所の分散化など、混雑緩和に向けた対策が必要
- ③多様な客船の誘致に向けて、ラグジュアリー層に対応した体験型観光メニューなど、観光コンテンツの磨き上げが必要
- ④寄港の再開に向けた安心・安全対策（新型コロナウイルス感染防止対策）及び受入側の理解の推進

※外国客船はコロナ禍での運航再開に必要なガイドラインが策定されておらず国内の運航を停止中（令和3年12月現在）

対応方針

（1）海外に向けたセールス&プロモーションの推進や受入環境の整備

- ①重点市場等の方々に、本県の魅力をダイレクトに伝えるプロモーションを推進
- ②インバウンド対応可能な観光コンテンツの発掘及び磨き上げ
- ③現地旅行会社及び航空会社へのチャーター便による旅行商品造成の働きかけや高知龍馬空港における受入の調整・検討
- ④ユニバーサルツーリズム（食文化、障害者、高齢者など）への対応促進

（2）船会社への誘致活動と受入体制・観光コンテンツの充実

- ①船会社への誘致活動（海外見本市への出展、トップセールス等）
- ②市街地の混雑緩和対策
- ③観光コンテンツの充実
- ④受入側が行う感染防止対策

担当部局

観光振興部
産業振興推進部
子ども・福祉政策部
中山間振興・交通部

観光振興部
土木部

推進チーム（案）

観光振興部 ■ 国際観光課 ■ 地域観光課 ■ おもてなし課 ■ 観光コンベンション協会
産業振興推進部 ■ 地産地消・外商課
子ども・福祉政策部 ■ 障害福祉課
中山間振興・交通部 ■ 交通運輸政策課
土木部 ■ 港湾振興課 ■ 港湾・海岸課 ■ 高知県高知港外国客船受入協議会